



シャッターが閉まっていた商店街に、子ども商店が開店した。

いつごろからか、閉店していたお店のスペースに明かりが灯るようになった。子ども達が何やら集まってゲームをするようになったのだ。
コンピューターのゲームではない、アナログのボードゲーム。ゲームだけではなく、みんな何か商売の勉強しているようだ。一緒に参加している親も多い。

しばらくすると、そこには子どもたちが運営するお店ができていた。

子どもの視点で集められた商材は、まだまだ未熟で売れないものもあるが、大人が考えなかった視点での面白い発想で売れる商品もある。子どもと一緒に商品集めや商品づくりに協力する高校生、大学生、大人も現れ、開発された商品を買って応援することもある。

協力してくれた年配の人たちに、子どもがLINEの使い方を教えてあげるシーンもある。役に立って喜ばれるという経験もしているようだ。

子どもたちはいろんな体験を繰り返す中でもっと学びたいと思い、勉強にも力が入るようになったと言う。学校の成績も実はみんな上がっていると言う。商売などに力を入れていると勉強がおろそかになるのでは？という大人の心配は杞憂に終わっているようだ。

商店街には、コミュニティが復活していた。その昔、隣同士が遠慮なく話し、調味料が足りなければ借りに行く頃のような地域の繋がりが。

近隣のいろんな年代の人が交流し合うコミュニティ。
商店街の本来の役割は、これではなかったか。

☆ ☆ ☆



これは、来年の春頃に新聞に載る内容を想定して書いた文章。
昨日の子ども商店プログラム体験説明会の時に、皆さんと話して描かれたシナリオです。

子ども商店プロジェクト、子ども商店学校は、
世の中に大きな循環を起こそうに感じています。



子ども商店プロジェクト@泉大津は上記ブログの体験説明会に参加された一般社団法人松南志塾 副代表理事 岩田千栄美さんが「これは是非とも実現させたい！」と大いに共感され、泉大津 南出賢一市長さんや北助松商店街理事の方々と一緒に引き合わせて下さったことよりスタートしました。
「私の町でもぜひ！」興味を持って頂いた方は、ぜひ、たくらみ屋メンバーへお声掛け下さい。
「子どもの才能の可能性を青天井に伸ばす！」一緒にたくらみましょう

たくらみ屋・子ども商店
ブログはこちら ▶



社団法人松南志塾さんの
サイトはこちら

ご連絡・ご相談はメンバーのFacebookメッセンジャーか
たくらみ屋HPの手配書まで

たくらみ屋  <https://takuramiya.com/>

株式会社たくらみ屋 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目10-11マルイト江戸堀ビル2F

たくらみ屋マネージャー通信・子ども商店プロジェクト@泉大津Report2018 制作・勝矢和美、キキエッセンス・北村なお子



泉大津子ども商店
プロジェクト
Facebookページは
こちら

子ども商店プロジェクト

◎ 泉大津2018 Report



たくらみ屋

2019. 1

子どもの才能の 可能性を 青天井に伸ばす

こんにちは。
たくらみ屋マネージャーの勝矢和美です。

去年、1月に会った、泉大津@子ども商店プロジェクトの子どもたち。出会った時は、みんないわゆる普通の子どもたちだったはず...

だけど約1年で子どもたちはとても逞しく、生きる力を身に付けました。
4回の1日MG(マネージメントゲーム)と、「たくらみカフェ」と称した講義&フィールドワーク。
5月に「みんなdeつながる市場」の出店、夏休み・1泊2日の合宿。

そして、11月、来場者数1,500人の「わいわいフェスタ」出店が1年間のプロジェクトの集大成でした。

大人たちは、子どもたちがこんなに素晴らしい結果を出すとは、正直、思ってませんでした。

子どもたちが出したお店は全部で5店舗。

大人たち、プロが出すお店より高い値段をつけ、走り回って売り切り、全店、利益を出し、アルバイトとして手伝ってくれたお母さんたちに、自分たちより高いお給料を、感謝の気持ちと一緒に渡しました(*^^*)

注:MG(マネージメントゲーム)とは
経営者視点を磨くために、意思決定を繰り返し、1年間の経営の結果、利益がでたのか、決算で検証します。難解に思われる経営が、図形とシンプルな言葉に置き換えられているため、割り算ができるようになると、大人・子どもが世代を超えて学び合えます。



「大人はお口チャックで見守るだけ」が合言葉の子ども商店プロジェクトです。



自分たちでお店のコンセプトを決め、いくら儲けるのか。そのために、いくらで何個売るのがいいか。出店計画書を提出して、出店が認められます。

子ども社長たちは何度も作戦会議を重ね、試作を繰り返し、看板やチラシも作り、この商品、この価格で売れるのか？マーケティングの検証もしています。学校もあるし、塾、習い事、お祭りもあったし、泉大津を直撃した大型台風もありました。

だけど、自分でやると決めたらやるのです。やらない理由はないのです(*^^*)

「お客さまが喜んでくれるのが嬉しかった。」
 「みんなでしっかり協力でできて良かった。」
 「この活動を通じて人との交流が楽しくなりました。」



今、この子たちの中に、1年前、お母さんにくっついて、恥ずかしそうにしていた面影はありません。

自分の想い・考えをしっかりと言葉にし、行動します。決めたことはやり遂げます。「自分」「自分」ではなく、相手を思いやりながら、進めます。お客様に喜んでもらう事を考えながら、応援してくれている人への感謝の気持ちを伝えることも忘れません。

私には子どもがいません。だから、自分の子育てと比べることは出来ないのですが、経営者時代のスタッフたちとの関わりに照らし合わせていました。

スタッフたちが考えてる間に、私が口を出してなかったかな？
 考える根拠になる共通言語・物差しを持っていたかな？
 安心して失敗できる環境を作ってたかな？ 全部、NOです。

私、自主自律で働く職場を創りたかったのです。ですが…基盤、基準がないところで、右往左往していても、才能は伸びないことに気がついたのです。共通言語・共通の物差しがあって、自分たちで出来栄を評価できてこそ、才能が発揮されるのを、一年の子ども商店プロジェクトのサポートを通じて学ばせて頂きました(*^^*)

子ども商店社長たちと同じ時代のマーケティングで勝負する期待と恐怖



子ども商店・夏合宿に参加された30代、経営者・大西さんのFacebook投稿をご紹介します(*^^*)

【花屋はMGで倒産しそうになりました苦笑】
 8月11～12日と泉大津子ども商店街夏休みMG合宿に参加させていただきました。

初めてのMG(マネジメントゲーム)。もうルールもわからなければ、決算書の書き方もわからないので小学生に教えてもらいながらゲームに参加。笑

MGも楽しかったのですが、MG先輩のこどもにも教えてもらう面白さと新鮮さ。そして小学生にして商売の決算書や損益分離点を学んでるこどもたちに期待と同じ時代のマーケティングで勝負しないといけない恐怖を覚えました笑



子どもの才能が青天井に伸びる場合は、大人の才能を同時に広げ伸ばして行く

運営・共催する松南志塾さん、北助松商店街さん、たくらみ屋は当初予定してなかった5月の助松神社・つながる市場でのリアル出店、ブースの確保はじめ、子どもたちの成長する熱量を充分に発揮できるよう、場創りに奔走することが多々ありました。

私や上記でご紹介の大西さんはじめ、子ども商店プロジェクトに参加した大人は子どもたちの能力の高さに驚き、自分たちの「子ども」という固定観念を崩されます(^^);

子どもたちと一緒に学んだお母さんたち
 準備でどれだけ家がわやくちやになるうが、兄弟間の社長・アルバイトの労使交渉が難航しようが、「大人はお口チャックで見守るだけ」「失敗する機会を奪わない」を守ります。

子どもたちは環境が整っていれば自分たちで考え、「お客様が喜んでくれるため」「働いてくれる人の幸せ」「自分の喜び」三方良しの答えを見つけてます。

子どもたち才能の可能性はどこまで伸びて行くんだらう♪
 その子どもたちと一緒に大人たちはどこまで広げ伸ばしていけるんだらう♪

私はそれが楽しみでなりません。そして、多くの方とこの未来を分かち合いたいと願っています(*^^*)

3月 2回目の体験会
 「大人気ばい！」子ども大人も本気だからこそ
 おもしろい学び合い♪

2018年
 1月 はじめての体験会
 全員の「楽しかった♪」が子ども
 嬉しかった♪

5月 くらみカフェ
 講義とフィールドワーク
 ゲームとお店経営のうべがらまじり♪

5月 みんなでつくる市場
 はじめてのお店経営

3店舗
 みんなバッチリ
 黒字でした。

8月 夏合宿
 1日は「ふん」野外で

壁見取りで系果検証
 自分たちで系経営言語曲
 します。

11月 わいわいフェスタ
 お客さまも応援してくれる人も
 自分たちで、みんなが幸せになる
 うれしい系経営でした。